

# みなみかぜ便り

Communicate with... vol. 7

みんなの党神戸市議員団 2013年1月14日発行  
〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 市役所1号館26F ●TEL 078-322-6361 ●FAX 078-322-6128 ●携帯 080-6150-0373

## 環境局事業所職員の出勤状況について

昨年のゴールデンウィーク明けに、環境局北事業所では109人中52人の職員が休み、定時にごみが取りきれなかった事がありました。注意喚起が行われたと聞いているが、今回も、ごみの多い年始にも休む相談をしている職員がいるとの通報から、環境局職員の仕事に対する意識の問題、管理職の管理監督責任について質問しました。

**上原** 平成24年5月8日、環境局北事業所で半数の職員が休んだことについて、ゴールデンウィーク明けでごみが多いことを予測出来る状況の中、なぜ年次有給休暇の時季変更権を行使しなかったのか？また、時季変更権を行使しなかったことについて、各所属長の責任をどうお考えか？そして、こうした事態を招いた環境局長や人事担当者、副市長、市長の責任はどうか？

権というものがあがるが、実際問題として行使されなかった。ただ、結果として、ゴミはその日中に取り終えた。その日中に取り終えたとするが、当日のごみ収集車が処理場に最後に入ったのは、17時10分(通常なら15時台)。つまり時間外勤務(終業時刻は16時30分)となり、可燃ごみは夕方まで残っていた。

始、つまり通常よりごみの多い平日6日分の出勤状況を調べたところ、北事業所で6日中4日休んでいる職員は10人、3日以上、つまり休み明けのごみの多い日に50%の確率で休む職員は、17人居た。同じ職員がごみの多い連休明けや年始に休むということは、これまで長年続いてきたと思われるが、このような勤務実態を神戸市は把握していたのか？

**中村副市長** 今後は、休暇を計画的に取り、業務に支障が出ないようにする。

**中村副市長** 少なくとも私どもについては、知らなかった。調べようとしていなかったということではなく、そういう実態を必ずしも抽出していなかった。

**上原みなみ**  
◎みんなの党 神戸市議員 ◎総務財政常任委員会委員  
◎大都市行財政制度に関する特別委員会委員  
◎「北区に住んでいるって大声で言い隊」理事長 ◎気象予報士・環境再生医・書道師範

1969年3月16日神戸市兵庫区生まれ、現在北区緑町在住。夢野小、夢野中、鈴蘭台高、神戸大学卒。サンテレビでのお天気キャスター、夕刊フジでの連載コラム執筆、J-COMキャスターを経て、2011年統一地方選挙で6033票いただき、神戸市議員(北区)となる。趣味は書道、ケーキ作り、ゴルフ。

上原みなみ 検索



## 本年も、さらなる行財政改革に努めます!

公職選挙法により禁止されているため、新年の挨拶は省かせていただいております



昨年末には衆議院選挙が行われ、慌ただしい年越しだったと思います。国政選挙には、毎回600億円を超える多額の税金が使われます。せめて無駄に選挙が行われることがないように、国民のためになる政治を期待したいものです。さて、平成24年度第4回定例会(12月5日)では、私がみんなの党を代表し、市長・副市長に質問をしました(内容は2、4頁)。



2013年

みなみ書

今日もまた(多) 心のか(可) ね(年) をうちならし  
うち(遅)な(那)ら(志)つゝ あ(阿)く(九)が(可)れ(礼)てゆへ

## 特別職の退職金について

# 市長・副市長の二期毎の退職金を、皆さんはどう判断されますか？

神戸市長の退職手当は、一期4年で4,196万円(現任期のみ30%削減、既に8,392万円受取済)、副市長は2,664万円(同15%削減)です。

これらの特別職に退職金があることを、皆さんはご存知でしたか？これまで広報KOBEにも、特別職の退職手当の存在が掲載されたことは一度もありません。

そこで、神戸市の特別職退職手当額(減額前)が政令市トップクラスである点と、市民に広報されていない点、市職員や官僚を経て一度退職金を受給した人が、特別職としてたった4年間で数千万円もの退職金を再支給されることについての市民感覚とズレについて質問しました。

**上原** 兵庫県では特別職の給与や退職金について審議会が発足し検討が始まったが、神戸市でも規定額自体を見直すべきではないか？

**小柴副市長** 現段階で審議会を発足して見直すことは考えていない。

**上原** 市長や副市長に退職金が支給されることを、自らの税金が使われているにも関わらず、殆どの市民が知らずにいる。市民が知り得にくい状態にしているのは、神戸市として不誠実ではないか？

**小柴副市長** ホームページ上では公開している。

**上原** 条例文やPDFファイルを開かなければ情報にたどり着かない現状で、市民の皆さんに分かりやすく公開していると言えるの

か？

**小柴副市長** 紙面には限りがある。市民のニーズには様々なものがある。

**上原** 特別職の退職金が必要か不必要か、また金額が妥当なのかということは、税金を納めている市民が判断することである。副市長とは一体、どのような業務を行う人物なのか、また、副市長は実際に的確に業務を遂行し、市民のために役立ったのかという実績が、市民の皆さんに伝わっていると思われませんか？

私は、他の政令指定都市と横並びで退職手当を決めるべきだとも考えていない。政令市トップクラスの給与や退職手当を受け取るなら、政令市No.1の特別職であれば良いが、ご自身の実績は如何か？

何か？

**小柴副市長** 我々は、自分で評価するものではない。

**上原** 堺市、仙台市、名古屋、静岡市は市長の退職金ゼロ、大阪629万円(85%削減)。特に公選職でもない副市長が、たった4年間で2,000万円を超える退職手当を再び受け取ること、今の市民感覚に合っている、理解が得られるとお考えか？

**小柴副市長** 退職手当は、前職において支給された否かではなく、特別職としての任期について支給されるものである。

**審判を下すのは、市民の皆さんです！**

## 入湯税の充当状況について

# 入湯客が、再び温泉を訪れたいと思う使い方に特化すべきではないか？

入湯税とは、鉱泉(温泉)浴場の入浴客に対して課せられる市町村税で、鉱泉源の保護管理施設・環境衛生施設の保護・消防施設等の整備・観光の振興や施設整備などに要する費用に充てる目的税です。

神戸市では昭和53年より現在の全国平均値である一人一日150円と設定されています。平成23年度の入湯税決算額は、約2億2,951万円。その内有馬温泉が徴収した入湯税は、約1億9,205万円と8割以上を占めます。

このように入湯税の殆どが、有馬温泉での税込であるにも関わらず、温泉観光への還元が少なくないと思われることから質問しました。

**上原** 神戸市では、入湯税の51%が消防施設等の整備に使われており、他都市と比較して充当比率が高い。建物火災により消防車が出動した件数は、過去5年間で、有馬温泉の旅館では0件。毎年約40件発生している北神地区の建物火災の全てが有馬温泉の旅館以外という実態から、多額の入湯税充当がふさわしいと言えるのか？

**小柴副市長** 有馬に起きた火災だけを有馬に落とすと聞こえるが、一般財源の性格上違う。

**上原** (入湯税は、目的税である。一般税源に繰入れ、予算配分されるが、本来、入湯客が再び訪れたいと思える使い方をすべきではないか？という趣旨で聞きました。)

入湯税の充当状況について、納税者である有馬温泉などの入湯客に、どのように広報しているのか？

**小柴副市長** 予算の段階で広報しているが、たくさん項目があり、そのところについては、今とどこ、どうこう無い。広報はすべきだと考える。

**上原** 現在の入湯税の充当状況を、入湯客は納得されると思うか？

**小柴副市長** 納得しているかどうかは、今まで話を聞いたことがないので、コメント出来ない。

**上原** 神戸市における入湯税の観光振興費率は、1.7%(平成22年)から30%(平成23年)に跳ね上がった。これは平成22年度まで一般財源で行われていた市内観光情報案内事業約6,370万円

を、入湯税財源に移行しただけのことである(大半が市内全域の観光案内)。つまり、平成23年度からの市内観光情報案内事業への入湯税充当は、入湯税における観光振興比率を引き上げるためだけの数字上の操作と考える。有馬の玄関口に公衆トイレを設置して欲しいというだけで、「費用負担はどこですか」などと財源不足により前向きな検討がなされなかった。それなのに今回の市内観光情報案内事業が一般財源から入湯税充当へ変更されたことは、全く理解ができない。

**有馬は、日本最古の温泉。神戸市の宝です！**